

空き家情報共有システム構築によるリノベーション促進事業(大台町)

課題と目的	空き家バンク等の制度があるものの登録が進まない状態のまま、荒廃する空き家が目立ち始めた。これに対し、行政のみでなく町内民間事業者とも連携する体制を構築する。
取組内容	①空き家の可能性について共有する講演会 ②先行事例調査 ③町内空き家を巡るツアーとワークショップの実施 ④空き家所有者の意向調査 ⑤空き家データベースシステムの開発
成果	①空き家所有者の意向 ②町内空き家のデータベース ③データベースを基本とした民間事業者への情報提供方法

取組内容

● 1 : 空き家の・可能性について共有する講演会

(株)エンジョイワークスから講師を招聘し、町内自治会長をはじめ、上記の連携を図る関係者が出席

● 2 : 先行事例調査

NPO法人尾道空き家再生プロジェクト(広島県)、鳥羽なかまち会(三重県)、(株)エンジョイワークス(神奈川県)の取組調査

● 3 : 町内空き家巡りツアーとワークショップの実施

事業を始めたい人を町内外から募集し、ワークショップ等で大台町の更なる可能性を見出すことと人材発掘を目的とした。

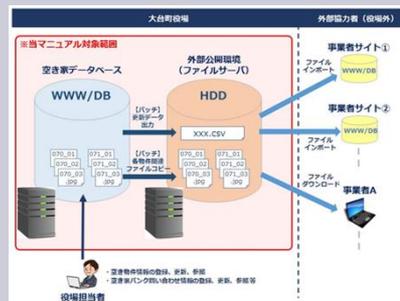
● 4 : 空き家所有者の意向調査

アンケートにより411件に通知し、171件の回答を得る。

● 5 : データベースの構築

役場内部とスムーズに外部へ空き家情報が提供(所有者の了承を得られた物件のみ)ができるよう構築した。

主な成果物: 空き家データベースの構築 など



空き家所有者の意向確認

●活用に積極的な意向が確認できた



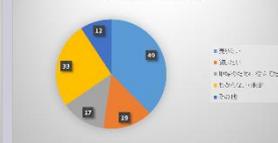
データベースの構築

- 役場内関連部署での情報共有が可能となる
- 了承を得た物件のみを外部関係者に情報提供することが可能となった

売却や賃貸としての活用について



活用の方法について



空き家巡りツアーとワークショップ

- ①起業意向の高まりを確認できた。
- ②事業プランを実現する上での課題や障害の有無について問うと「ある」との回答が80%を超えた。